

日本精鉱

荷造りラインを増強

製品在庫の滞留短縮

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱は、中瀬製錬所(兵庫県)の荷造りラインを増強する。全体の生産能力に対して不足していた最終工程の梱包設備を増やす。製品在庫の滞留を防ぎ

ードタイムの短縮につながる。設備投資額は約1億円。早ければ2012年夏ごろまでに稼働させたい考えだ。中瀬製錬所の現在の生産工程は、製品を梱包する最終の荷造りラインがボトルネックと

なっている。フル生産しようとするれば工程内で製品在庫が一時的に滞留し、その分リードタイムが長くなる課題を抱えている。リードタイムが長いと、原材料のアンチモン地金の価格変動リス

クが高くなる。地金価格は、過去2年間で3倍に高騰してトン1万5000円を付けている。価格水準が高くなれば、急落時の値幅も大きくなりやすい。さらに、資金負担も高騰した分だけ大きくなる。

三酸化アンチモンをはじめとするアンチモン製品の生産能力は通常時で年6400ト。過去最高の生産量は04年度の6181トだった。11年度は上期2900ト、下期2800トで、合計5700トの生産を計画している。

荷造りラインを増強して生産した製品をすぐに出荷できる体制を整えることで、価格変動リスクや資金負担などを軽減できる。